

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 25 令和4年10月26日(水)  
新潟大学附属新潟中学校 学校だより  
文責 研究主任 山田 耀  
※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 教育研究発表会に向けて

世界9か国で18歳に実施された、あるアンケート調査があります。

「自分の国や社会を変えられると思う」

日本は、肯定的な回答の割合が、9か国の中で圧倒的に低いです。

本当にそうでしょうか。

日本の子どもたちは、国や社会を変える力がないのでしょうか？

私は附中生を見ていて、そのようには全く感じません。

皆さんの学級、学年、学校、地域、世界をよりよくしようと考え、行動していく姿をたくさん見ているからです。皆さんは「世界を変える」ことができる。そう信じています。

このような想いがあり、附属新潟中学校では、昨年度から「エージェンシー」を育む研究を行っています。

「エージェンシー」とは「自分の所属する集団に責任感や当事者意識をもって、よりよい方向へ変えていこうとする力」と私は捉えています。

この力は、皆さんに元々備わっている力であり、それを引き出して、磨いてさらに伸ばしていこうとしています。皆さんのよさや可能性が最大限に輝き、学校全体も輝く、みんなが誇れる附中と一緒に創っていきたく願っています。そうすることが、より多くの人の幸せを実現していこうと、世界を変えていく、みんなの成長につながると願っています。

さて、今週の金曜日には教育研究発表会があります。附属学校において、研究は大切な使命の1つです。しかしながら、私自身が生徒の時から感じていた思いがあります。

「自分たちにとって、この研究会は行う意味があるのかな？」「生徒が主役というけれど、本当に生徒が主役になりきれているのかな？」

だからこそ、教育研究発表会の在り方を変えたい。今まで以上に、皆さんのよさが発揮できる、自分たちのよさを実感できる、成長できる内容に、時間になりたい。その時には、きっと職員のよさも発揮できているはず。この研究会を、附中がさらに成長できる機会にしたい。そんな生徒・先生方の姿、学校像は、参加される全国の先生方に勇気を与える。

「中学生ってすごいな。」「こんな先生、素敵だな」「義務教育でここまでできるんだな」等きっとそう思ってもらえる。

研究会には多くの学生も参加します。附属中の教育活動の様子を見て、教師への憧れ・思いを強くし、教師になった人も多くいます。皆さんの姿は、学生の皆さんに夢を与えています。

このような思いから、今年度の研究会では、まず初めに生徒会活動を公開します。生徒会活動は、まさしく自分の所属する集団を、学校を、地域を、世界をよりよくしていく活動です。しかしながら、生徒会活動を公開する研究会は全国にまずありません。だからこそ、見てほしい。生徒たちがこんなにも豊かに学び、「エージェンシー」が育まれている姿を見せたい。

当日、3年生の圧倒的なリーダーシップのもと、自分たちで、どんな時間を創るのか、どんな姿を見せるのか、皆さんの「エージェンシー」がどのように表現されるのか。本当に楽しみです。

そして、公開授業。授業者の先生方と皆さんで、よりよい解を求めて、熱い時間が創られる。授業の中で皆さんの「エージェンシー」はどのように輝くのか。ワクワクしています。

今年度の教育研究発表会は、3年ぶりの対面開催での研究発表会です。これまで皆さんの先輩たちは全国からの参会者に夢や希望を与えてきました。

でも、私は今の附属新潟中生は、もっとすごい力を持っていると思っています。

それを全国の先生方に見せたい。

さあ、附中生。どんな姿を見せますか。

今年度の研究会は、生徒が主役。先生方も主役。附中が主役。

さあ、僕らの附中を見せましょう！